

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2013年10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第548号

今夏、二つの講演を聞きました。高橋哲哉氏の「福島・沖繩―「犠牲」のシステム」の視座からと鈴木順子氏の「シモーヌ・ヴェイユと信」です。両者とも「犠牲」をめぐる語られており、イエス・キリストの「犠牲の死」について触れられていました。

高橋哲哉氏は『靖国問題』(ちくま新書)から『犠牲のシステム 福島・沖繩』(集英社新書)において、国家と国家が要求する犠牲の問題、国のために命を捨てる自己犠牲を国民の義務とするシステム、「犠牲のシステム」を問題としてられました。そして、キリスト教の贖罪論も「犠牲の論理」として、犠牲の死を美化していくことの問題を語っておられました。

イエスの死を「贖罪の死」とすることには聖書学の立場などからも問題提起されていますが、改めて死のあり方に焦点をあてるのではなく、「生の方向」へ向かうことが問われているのだと思います。一方で、鈴木順子氏は『シモーヌ・ヴェイユ「犠牲」の思想』(藤原書店)において、フランスのユダヤ系女性

思想家シモーヌ・ヴェイユ(1909〜1943)の短い生涯の多彩な活動(哲学・政治・宗教)には、一貫して「他者を生かす姿勢」が軸としてあると語ります。そして、十字架上のイエス・キリストとの出会いという「神秘体験」によって、それが「犠牲」という思想へ深められていった、と。

「犠牲」をめぐる



財団評議員・関東運営委員
増田 琴

ヴェイユは、「イエスの受難は一回限りでなく、他の時代、他の文化にキリストはさまざまな現れ方をしてそのたびに受難にあつている」と考へ、その「犠牲」とはいわゆる「キリスト教におけるキリストによる贖罪という教義からは距離がある」ものでした。鈴木氏は、ヴェイユが集団(全体主義国家、宗教団体、

この「義務」を履行し、他者を生かそうとするとき、人は自身のなにかを犠牲にせざるをえません。

政党など)に殉ずる滅私奉公的犠牲を「偽りの犠牲」として鋭く批判していたことを指摘します。同時に、他者からの尊敬のまなざし、意識や記憶という「社会的人格」を奪われた人々を支えようという意志から人と人との関わりが始まる、ヴェイユはそれを「義務」と語りました。

教会の外側に立ち、一度も与ることのなかった「聖体拝領」は、苦難への連帯による拒食傾向のあつた彼女にとつて、「取つて食べよ、そして生きよ」という呼びかけであつたのかもしれない。外に立ち続けることも、彼女の「犠牲」だったのでしょう。こうしたヴェイユの「犠牲」

の問いかけは、犠牲の死へ向かう方向ではなく、生へ向かう方向を指し示しているとも思います。もとより、自分が生きる場を求めて右往左往している弱い者にとつて、ヴェイユの指し示す地平ははるかかなたに望み見るものに思えるのですが、他者を生かし、自分を生かす場と関係の創出は、宗教共同体という「中間的集団」の大切な課題であり、応答でもあるのだと教えられました。

翻つて、自民党「日本国憲法改正草案」(2012年4月27日)には、「…自由及び権利には責任及び義務が伴うことを自覚し、常に公益及び公の秩序に反してはならない」(第十二条)とあり、現憲法にはない、国民の「義務」について国が規定することが提案されています。それはいわば国家のために犠牲を強い「犠牲のシステム」を前面に押し出したものでしょう。今を生きる者として、語る言葉を見出し、身を置くためにも、対話や議論が必要であることを思わされました。(巣鴨ときわ教会牧師)

関東活動センター

シリーズ「キリスト教の周辺の人々」第1回
「海舟と論吉がキリスト教に求めたもの」

NHK会友 大正大学名誉教授 鈴木 健次さん

2013年6月21日(金)
日本キリスト教会館



明治以降のこの国のプロテスタント・キリスト教の歩みにおいて、いわゆる正統主義的なキリスト者としてではないけれども、キリスト教に理解をもち、またその擁護者、支援者であった人々が存在した。あるいは逆に洗礼を受けたものの、後に教会生活から離れ、キリスト教から距離を置いた人々も多数存在する。これまでのキリスト教史研究では見落されるか、「背教者」として退けられるかのどちら

かであったこれら「キリスト教の周辺の人々」を取り上げて、日本の教会の課題を考える新しいシリーズである。

その第一回として、六月二日(金)、鈴木健次(大正大学名誉教授)さんを講師に迎えて「海舟と論吉がキリスト教に求めたもの」というテーマで学習会が行われた。本来アメリカ文化史が専門の鈴木さんは、明治初期の代表的な知識人勝海舟と福沢諭吉のキリスト教観を、詳細なレジュメと資料に基づき、また豊富なエピソードを通して紹介された。それによれば、海舟は、既に長崎海軍伝習所時代にオランダ人士官を通してキリスト教に触れ、オランダ語の讃美歌の訳詞もあるとのこと。さらに明治初期に来日



したW・ホイットニー一家と家族同然の親しい交流を続け、特にアンナ夫人から人格的な影響を受けたという。海舟は洗礼を受けてはいないものの、キリスト教に深く傾倒していたと見られるのである。

一方福沢諭吉は、言うまでもなく西洋文明とキリスト教についての高い識見をもっていた。当初キリスト教排斥論であったが、後に容認論に転じ、イギリス人宣教師を慶応義塾に招く計画もあったという。ただそのキリスト教理解は、やはり功利主義的評価であり、その点を内村鑑三や植村正久が厳しく批判してい

る。

つまり「罪とその救い」という観点から見ると、海舟も論吉も到底クリスチャンとは言えないことになる。しかしそれ以外の点、倫理や人格的陶冶という点で、明治初期を代表するこの二人の知識人はキリスト教をきわめて高く評価していることになる。この

あたりに、日本宣教の困難と課題がほの見えるのではないだろうか。

なお、『キリスト新聞』(二〇一三年九月二一日号以降)に、当日の鈴木さんの講演の内容が連載されているので関心のある方は是非ご覧いただきたい。(戒能信生)

●聖書を読む講座
「聖書によれば同性愛は罪?」
——わたしらしい性と生のために——

日本フェミニスト神学・宣教センター 山口 里子さん

2013年4月〜12月第2月曜日
日本キリスト教会館

昨年度末より、関東活動センターでは、「聖書講座」を二本立てとしていくことを模索しています。この数年形づくってきた従来の講座をシニアクラス的な位置づけとして、これに新たに入門クラスを加えて開講しています。

現在行っているのは、二つの内、シニアクラス的なもの。「聖書によれば同性愛は罪?」わたしらしい性と生のため」と題し、毎月一回の九ヶ月連続の講座で、講師は山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センターディレクター)にお願いました。テキストに講師の著書である『虹は私たちの間に——性と生の正義に向けて』(新教出版社・二〇〇八年)を用いて、一章ずつ参加者と共にじっくりと読み進めています。毎回課題の章に関する解説が簡単になされて、その後に参加者を五名程度のグループに分け

でのデイスカッション、分団発表、講師からの応答、感想・質問用紙への記入という形で
の講座です。なお、参加者が
時間をかけて記した多岐に亘
る感想・質問へは、次の回の
冒頭に講師から丁寧な応答が
なされています。

さて、今回の「聖書講座」は、
その表題からしてかなりチャ
レンジングなものです。この
間、日本キリスト教団でもさ
まざまに問われてきた事柄に
関して、聖書本文への批判的
な接近を目的・課題としてい
ます。

テキストを通じて、同性愛
者への断罪の根拠とされてき
た聖書本文が旧約・新約から
順次取り上げられ、これへの
聖書学的・社会学的な読み直
しが徹底して行われます。講
師の批判作業の根底には、昨
年度の「聖書講座」で一〇回
に亘って詳しく学んだ『新し
い聖書の学び』を通じての研
究手法と成果とが遺憾なく発
揮されており、切れ味鋭く、
本文の意味する本質が開示さ
れていきます。

こうした作業から、聖書翻
訳がいかに意図的であるの
か、またその意図の背後に、

聖書文書執筆当時の社会状況
や性をめぐる事柄への誤解や
偏見があるのかが明らかにさ
れていくのです。

「聖書によれば同性愛は罪」
であると断じて憚らない硬直
した信仰を、少しでも解きほ
ぐして、神の創造はセクシュ
アリティを含めて実に豊かで
あることを明らかにしてい

関西セミナーハウス活動センター

●修学院フォーラム「福祉―重荷を負う人と共に」第1回
「二人一人みんな違っていい べてるの
人たちから学んだ生きる力、暮らし方」

北海道医療大学看護福祉学部教授
社会福祉法人浦河べてるの家理事

向谷地 生良さん
2013年9月7日(土)

今や、癌や脳卒中などと共
に「国民病」と言われるよう
になった精神疾患は、現在、



く、このことに使命観を抱い
ておいでの講師の導きによつ
て学びが続けられています。

三〇名近くから出発しまし
たが、現在は一五〜一六名で
の学びとなっております。講師
の熱心さに比して、参加者が
少なめなのが何とも残念です
が、参加者からの反応は極め
てよい「聖書講座」です。

40人に一人が治療を受けてい
るといわれる身近な生活習慣
病の一つとなりました。今回
浦河教会で取り組んでこれら
た「べてるの家」から報告を
聞きました。35年前から、こ
の病をかかえた人たちが負わ
された課題を、教会の課題と
してともに担う歩みをはじめ
、「浦河べてるの家」の働
きを生み出しました。「偏見
や差別の対象となってきた精

神疾患を持つ人たちの経験を
通して、この病が、大切な『希
望の病』であることを教えら
れてきました」という向谷地
生良氏からその恵みを語って
いただきました。相方に「統
合失調症の伊藤です」と名乗
られる伊藤氏との掛け合いの
話です。



く。「直そうとしない取り組
み。現実をそのまま捉える。
焦らない「安心して絶望する」
集団がある。「立派な」父親
を恐れて育った伊藤さん。浦
河に来て新しい自分と出会う
経験が紹介されました。

一人の婦人の質問。息子の
閉じこもりと暴力に10年以上
つきあって疲れ果てている。
解決の方法はないか。その問
いへの答えがこの会の内容で
あったと思う。「もしいま、
伊藤さんがパニックを起こし
騒ぎ出したらどうしましょ
う。どこかに連れて行きます
か。薬を飲ませて閉じこめま
しょうか。説得しますか」は
い、今まではそうでした」「当
事者は誰かということですが。
伊藤さんではない。彼にどう
対応するかではなく、私が当
事者になって研究するので
す。そのための対策会議です。
直そうとしない、息子さんを
どうするかではなく、息子さ
んのためにお母さんが何がで
きるかです。それを当事者と
なって研究するのです。模範
解答はありません。そこに豊
かな恵みが満ちてきます。」「
身を乗り出して耳を傾ける会
衆でした。

北海道の浦河という所は、
貧しいところであり、真に「何
もない」所。そこに精神疾患
を抱える80人の当事者が身を
寄せ合って生活している。35
年の歴史から豊かな経験が重
ねられている。今困っている
こと。その対策。会議し、取
り組み、休み、会議し、「3
度の飯より会議」というよう
に問題の本質をつかんでい

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座

「聖書によれば同性愛は罪? - わたしらしい性と生のために」

講師: 山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時: 2013年4月~12月の第2月曜日(18:30~20:00)・原則月1回 全8回

⑥10月7日 ⑦11月11日 ⑧12月9日

*第1~5回は終了

会場: 日本キリスト教会館6階会議室

参加費: 1,200円(学生500円)

共催: 早稲田奉仕園

■宗教対話プログラム

シリーズ「今、哀しみの最前線で」「遺族外来の現場から」

講師: 大西秀樹さん(埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授)

日時: 2013年11月16日(土) 13:00~15:00

会場: 日本キリスト教会館6階会議室

参加費: 1,000円(学生500円)

◆関西セミナーハウス 修学院きらら山荘

■能を楽しむタペin 修学院きらら山荘

解説・出演: 林宗一郎さん(観世流

能楽師)

会場: 関西セミナーハウス

各定員: 50名

第13回 能『定家』

日時: 2013年10月11日(金) 17:30~

能観賞料金: 1,500円/大学生 1,000円/中学生 800円 小学生以下無料(ご宿泊の方は無料) <特別公演> もみじまつり薪能『巴(とまえ)』

日時: 2013年11月22日(金) 17:00~

特別鑑賞料金: 2,500円/大学生 2,000円/小・中高生1000円

■月鑑 清心会

日時: 2013年10月13日(日)

11月10日(日)

9:00~15:00 受付

(1、8月を除く年10回)

於: 関西セミナーハウス

年会費: 5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2013年度修学院フォーラム

「いのち一生、老、病、死を考える」 第3回「死にゆく人格権 一自宅で家族に看取られる死が理想なのか?」

講師: 福島 旭さん(関西学院中 学部宗教主事、日本キリスト教団牧師)

日時: 2013年10月26日(土) 13:30~17:30

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 1,000円/学生500円

■お茶のこころと宗教のこころ

2013年度第2回

「牧師さんが茶道教室の先生になると!」

講師: 水野 健さん(枚方コミュニティチャペル牧師)

日時: 11月11日(月) 13:30~17:00

会場: 関西セミナーハウス 参加費: 2,000円(抹茶代込)

■2013年度開発教育セミナー

2013年度第5回「グローバリゼーションの中で求められる経済のしくみ~子どもたちとつくる未来のために~」

講師: 浜 矩子さん(同志社大学大学院教授)

日時: 11月16日(土) 16:00~17日(日) 12:00

会場: 関西セミナーハウス 参加費: 10,500円(1泊2食込)

■2013年度修学院フォーラム

「エネルギーを考える」

第1回「チェルノブイリと福島から」

講師: 山崎 知行さん(和歌山県岩出市医師)

日時: 2013年11月30日(土) 13:30~17:30

会場: 関西セミナーハウス 参加費: 1,000円/学生500円

◆関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催

■2013年度 もみじまつり

日時: 2013年11月23日(土・祝) 9:00~16:30

会場: 関西セミナーハウス 参加費: 前売3,000円(茶席2席(内1席野点席)、弁当込)

東 西 南 北

◎関東活動センター

眞下弥生(嘱託)、9月30日付で退職しました。

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6F
TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2013年8月1日~2013年8月31日 (順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費

市川 邦雄 5,000
横野 朝彦 100,000
根津 建 5,000
真崎 みよ子 5,000
松島 美一 5,000
道正 洋三 5,000
服部 千賀子 5,000

寄付金

田島 慶子 5,000
小林 義彦 3,000
加藤 真規子 3,000
長 清子 3,000
道正 洋三 5,000

◆関西セミナーハウス

寄付金

山田 晴信 70,000
森口 克洋 30,000

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

木原 諄二 5,000
福島 旭 10,000

小久保 正 10,000
医療法人八田内科医院 5,000
横田 穂美 3,000
関西青年アシュラム小林牧人 10,000
中山 晴美 5,000
宮崎 達雄 3,000
多木 秀雄 5,000
都木 かおり 3,000

寄付金

西川 和江 5,000
根岸 宏邦 10,000
木原 諄二 5,000
杉野 榮 20,000
奈倉 道隆 3,000
小久保 正 100,000
高谷 泰市 5,000
高綿 一哉 5,000
高畑 恵子 3,000
松原 千里 3,000
北野 宗香 5,000
菅 恒敏 3,000
西村 久代 5,000
日本基督教団長岡京教会 10,000
原田 博充 3,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。